

緊急避妊薬へのアクセスについて

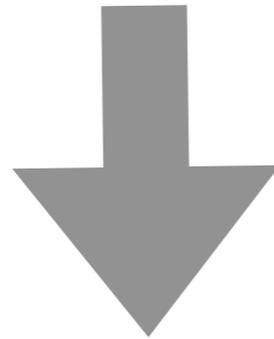
(一社) 日本産後ケア協会認定 産後ケアリスト

ママほぐ

高村 えり子

緊急避妊薬は72時間以内の内服で妊娠阻止率は約85%

24時間以内であれば95%であり、飲むのが早いほど効果が高い。



72時間以内の内服することで、多くの妊娠を回避

約90カ国では…

医師の処方箋なしに薬局で数百円～5,000円程度で購入可能。

日本では**医師の処方箋が必要**。価格1～2万円高い。

<緊急避妊に係る取組について> (厚生労働省)

緊急避妊薬は、性交後72時間以内に内服する必要性があり、迅速な対応が求められるものの、地方において産婦人科を受診しにくい状況や、デートレイプを含む犯罪などが関係する場合などにおいても**アクセスがしにくいという指摘**があります。

緊急避妊薬、薬局販売の解禁を検討 2021年6月7日（日経新聞）

厚生労働省は7日の有識者会議で、緊急避妊薬を処方箋がなくても薬局などで購入できる仕組みの解禁について検討を始めた。**同会議は2017年に認めないと判断**したが、見直しを求める声が出ていた。



(2017年)

- 悪用や乱用の懸念
- 国内では緊急避妊薬への理解が乏しい
- 薬剤師が販売するのに必要な専門的知識の習得が必要



(2019年)

- 厚労省が19年にオンライン診療での処方を条件つきで認める
- 服用が間に合わない事例を減らすため見直しを求める声が増える

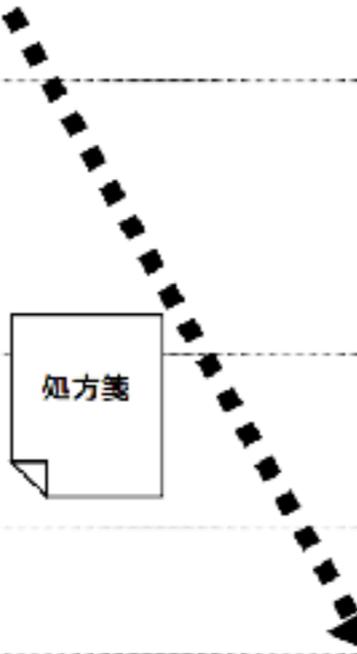
政府が20年12月に決定した「男女共同参画基本計画」は…

「専門の研修を受けた薬剤師の十分な説明の上で対面で服用すること」などを条件に、**処方箋なしでの緊急避妊薬の適切な利用を検討すると明記**

医師の処方箋が必要な医療用医薬品を薬局などで買える一般用の医薬品に変更する仕組みは「スイッチOTC」などとよぶ。

医療機関の受診や健康保険でカバーする薬代を減らして医療費を抑えると期待される。

オンライン診療における緊急避妊薬の調剤の手順(イメージ)

患者	医療機関(医師)	薬局(薬剤師)
<p>①対面診療の考慮</p>		
<p>②オンライン診療受診(医療機関への連絡) ・オンライン診療可能な医療機関へ連絡し、受診(受診前に、厚生労働省のホームページに公表される一覧に基づき希望薬局を選択)</p>	<p>③オンライン診療の実施</p> <p>④薬局の対応可否の確認 患者が選択した薬局に連絡し、対応可否を確認</p> <p>⑤(診療後)薬局へ処方箋情報の送付・情報提供 ・ファクシミリ等により薬局に処方箋情報を送付(患者情報も併せて送付・・・様式1) ・処方箋原本を薬局へ送付</p>	
<p>⑥患者が選択した薬局へ来局 ・来局の際に本人確認書類を提示</p>		<p>⑦調剤応需 ・本人確認を行い、事前送付された患者情報又は処方箋情報と相違ないか確認(様式2) ・必要に応じて処方内容の照会 ・調剤</p>
		
		<p>⑧服薬指導等 ・必要な服薬指導等を実施 ・3週間後の受診の必要性の説明(様式3)</p>
<p>⑨服用 ・薬局にて緊急避妊薬を服用</p>		<p>⑩服用確認・処方医への情報提供 ・服用したことを医師へ情報提供(様式4)</p>
		<p>⑪処方箋原本の受理 ・処方箋情報と相違ないか確認、保管</p>
<p>⑫3週間後の受診</p>	<p>⑬診療(対面) ・お薬情報提供書の確認 ・妊娠していないことの確認、より確実な避妊法の指導 ※オンラインと別医療機関の可能性あり</p>	<p>⑭患者の情報の提供(⑬の医師の求めに応じて)</p>

茅ヶ崎市でのアクセス まとめ

●オフライン（対面）診療

- ・一般的なスマホでの検索では三件該当 検索ワード『茅ヶ崎 緊急避妊薬』
また**検索結果には出てこない**が取り扱いある医療機関もある

●オンライン診療

- ・**一般的なスマホでの検索では困難** 検索ワード『緊急避妊薬 オンライン診療 茅ヶ崎』
- ・対応可能な医師はいるものの（厚労省HPに記載あるが一覧から検索は困難）、**専門医でない（産科でない）、あるいは病院内で周知されていないため、電話でその医師まで辿りつくことが困難**
- ・対応医師が24時間でない可能性が高い



一方で

オンライン診療に係る緊急避妊薬の調剤が対応可能な薬剤師及び薬局（厚労省HP）

→茅ヶ崎では複数ある・**且つ24時間対応可能**

※オンライン診療は茅ヶ崎市の医師である必要性はないが、例えば東京など面識や周囲からの口コミがない医師やクリニックから無限に選択肢がある中で患者自身が選択するのは困難

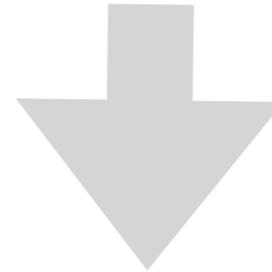
地域でのアクセスー岡山の取り組みー

- 薬局に行くだけで緊急避妊薬、岡山で開始
その場でオンライン診療に接続、地域で高めるアクセス性

岡山市北区で産婦人科医院を経営する上村茂仁医師が、県内の薬局と連携して10月から始めました。

薬局内の個室に設けられパソコンの画面を通じて上村医師が、訪れた人にオンラインで診療をした上で処方箋を出し、薬局にある緊急避妊薬を購入・服用してもらうことができます。

- ・ 一斉休校措置により外出できないため
自宅でのパートナーと過ごす時間が増えた
- ・ SNSを通じて性被害に巻き込まれた
- ・ 家族やパートナーなど身近な相手から性暴力を受けたなど



- ・ 若者からの妊娠に関する相談が倍増。
- ・ **10代に限ると約半年間で4倍にまで膨れ上がった**

日本では人工妊娠中絶は年間約16万件（1日換算で約440件）

10代では1日あたり約40件の中絶が行われている。

さらに、児童虐待死（心中以外）が**最も多いのは生後0日。**

その背景には、**予期せぬ妊娠があることも少なくない**

「薬を飲めていたら、違っていたんじゃないか」 (NHK NEWS WEB2021年6月18日より)

首都圏に住む40代の女性の体験です

6年前、交際していた相手に避妊を求めましたが、聞き入れてもらえませんでした

性行為のあと、緊急避妊薬を手に入れようとしたが、週末で、開いている医療機関は見つかりませんでした 週明けも仕事を休めず、薬の効果が期待できるタイミングを逃してしまったといいます

そして、妊娠が判明 出産することも考えましたが、交際相手が同意してくれず、悩んだ末に中絶しました

「仕事が終わって家に帰ると『消えてしまいたい』と、うつのような感じになって気分の浮き沈みが激しくて。

中絶という自分が望んでいない結果になってしまって、すごく罪悪感がありました。『なんでそんなことをしたの?』って責められるんじゃないかと思って、誰にも言えず、相談もできませんでした」

「『緊急だから』、『どうしても今、自分の人生にとって大きな分岐点だから』、『自分の将来を守るために選択するんだ』って思って緊急避妊薬を必要としているので、緊急時にすぐに手に入るようにしてほしいです」

文部科学省も、高校生以上を対象にした教材では、**緊急避妊薬**について具体的に記載しています。（ことし4月に公開）

WHOは、2018年「意図しない妊娠のリスクに直面するすべての女性と少女は、**緊急避妊の手段にアクセスする権利がある**」と各国に勧告しました。

緊急避妊薬を入手できることは“女性の権利”

あなたや、あなたのお子さんがもし緊急避妊薬が必要な状況になったとき、
どこへ電話をしたらいいか、
どこの病院に行ったらいいか、
あるいはそこが閉まっている時間だったらどうすればいいか、
すぐに想像ができますか？

あなたにとってそれは
アクセスしやすい状況にありますか。

一緒に考えてみませんか。